



# からしだね

2018年3月号

(536号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

協力司祭：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) : <http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



## 本号の記事の主題など

畠神父による巻頭言

「聖なる過越の三日間に向けて」

良き父親・デニス・マックゴワン神父は去りぬ

大人の日曜学校の報告

日曜学校の生徒募集案内

3月の教会カレンダーへの追加と変更

## 巻頭言

聖なる過越の三日間に向けて — 「人の子は人々の手に引き渡されることになる。そして殺されるが、三日目に復活する」(マタイ 17:22 - 24)

島 基幸 C.P.

デニス神父様の追悼ミサが2月10日5時半から行われました。司式は山内十束神父(御受難修道会日本準管区管区長、聖マリア幼稚園理事長)、説教は、染野治雄神父(宗像修道院院長、福岡黙想の家院長、第二顧問)、補佐は、ノイ・プラザ神父(第一顧問、池田教会主任4月1日着任)と中村克徳神父と私(共同宣教司牧チーム)、修道院からワード神父、アンドリュー・ソン神父、ブラザー鹿山、馬場神学生、そして近隣の箕面教会から矢野吉久神父様が教区北摂代表として加わり、参列者は、寒い夕暮れの時間だったにもかかわらず入りきれないほどの人数でした。デニス神父の死を悼むと同時に感謝の心が溢れていた共同の惜別の告別式となりました。幼稚園の卒園生、父兄、日生中央・池田の両教会の信者、MEファミリーなどが集まりました。叙階を受けて2年後1957年30歳の歳に日本に来日して90歳の誕生日を迎えるまで、日本のわたしたちのことを愛し続けられました。特に一年半前に日本からアメリカへ療養のために離日しなくてはならなくなっただけからは、恋しくて、恋しくて切なる思いで毎日を過ごされたとのことでした。

昨年11月18日、90歳の誕生日の前日聖心(みこころ)修道院ではデニス神父様のために大誕生会パーティを催し、妹のメリー・ワールドさんと息子さんのジョン・ワールド一家が駆けつけ、日本で13年間奉仕したジョン・パトリック神父と共に宣教の労苦への感謝と長寿の喜びをごミサでささげお



棺のデニス神父様に寄り添うメリー・ワールドさん(妹)とジョン・パトリック神父様、背が高いジョン・ワールドさん(甥)。手前は日生中央教会からの千羽鶴。

祝いしたところでした。葬儀の後、メリー・ワールドさんと昼食を共にして、お話を聞くと、デニス神父さんは日本に帰ることを望んでいて、妹さんが日本に帰ったら私は葬儀には参加できないと言ったら、髪の毛を送るから心配しないでと言われたと笑っておられました。90歳の誕生日が終わってから、次第に体調が悪くなっていたそうで、ブラザーが遺言を書くように促して、残された言葉は、火葬にして、遺骨をセントルイスにあるお母様のお墓に入れてほしいとのことでした。日本への宣教が決まってお母様に別れの言葉を言って悲しませたまま、再びお母様に会えなかったことが心の傷となった思いが遺言につづられていて、米国聖十字架管区では御受難会の墓地に会員を埋葬する慣わしですが、遺言を尊重して火葬にし、お母さんの埋葬された棺の上に埋葬することになったのです。妹さんのメリー・ワールドさんは遺骨の一部を日本に送り返すのが兄の思いを受け継ぐ私の最後の務めですと私に告げられました。日本へは死を覚悟で帰国することを決めていたようで、葬儀の司式者の名前まで決めてあったとのことでした。教会の伝統では、埋葬が普通で、火葬は現地の文化によるので、アメリカではまだ火葬するのは30%未満で、分骨の概念もないようなので、手続きをどうするのか、すぐには日本に渡れないのではないかと・・・

それにしても、聖アグネス教会は御受難会の神学生を養成した歴史的な由緒ある修道院で、徒歩10分でベラミン大学(ルイビル大司教区立)があります。公会議前までは、神学生は叙階前の2年間倫理神学をこの修道院で学びました。その後、哲学は大学で学ぶことになると、一部屋に4人が同室になるほど志願者が集まり、200人を越えることもあったといいます。現在は、修道院の聖堂が小教区の教会となり、その古い修道院の建物が療養中の会員や高齢の引退した会員のための修道院で、より介護を必要とする会員は、お隣のナザレトハウスやデニス神父がいたナザレト介護ホームでお世話するようになっています。

60年も日本に滞在したデニス神父さんにとって知り合いはほとんどなく、葬儀は30名で、パトリック神父と私を加えて32名でした。リチャード・サツティック神父の同級生2人が御受難会元神学生同窓会を立ち上げていて、そのメンバーや宣教師を送

り出した御受難会の家族たちが集ったのでした。

シカゴとは違ってレイビルは温暖な気候と森林に恵まれたところ。南部にしては、カトリック人口の多い市で、バーボン・ウイスキーや野球バットの生産など名産物と人柄が魅力で、多くの御受難会員の故郷です。アフリカのブルンディからの難民も小教区で30名ほど引き受け、修道院の土地を彼らに貸与して野菜畑が作られ生活できるように支援し、その一画に昔の家畜小屋を改造して、環境問題を考えるJPIC (Justice, Peace and the Integrity of Creation=正義と平和と被造物の十全)のセンターが置かれていて、この分野でのセミナーや通信をネットで配信しています。このセンターは、Tomas・Berry トマス・ベリー (御受難会司祭、中国宣教、仏教とインドの著書、特に晩年は環境問題の先駆的な啓蒙家)の精神を具体化する活動をしているようです。同じトマスで有名なのはトマス・マートンで彼のゲツセマネ修道院もこの町の郊外にあります。そして、ベラミン大学にはトマス・マートンの研究資料センターがあり、講習会があります。

この夏休みには、私自身、ここも訪れる予定にしています。苦しみのまったくない平和な環境のなかで苦しみの研究センターがあるのは不思議な感じですが、御受難会が活動修道会ではなく観想的な宣教修道会という独自性はこんなところにもあるようです。だからと、少し納得できる場所があるのは、デニス神父さんは、やはり、観想的な目で、つまりイエスのまなざしで子供たちと交わり遊んでいたのです。子供たちが赤ちゃんであれば、あるほど、まったくの自由にデニス神父さんの懐へ飛び込んでいったのです。それは本当に魅力のある愛の心でした。

さて、将来の私たちの宣教の道を見てみましょう。大阪教区は宣教150周年を記念して再々宣教を目指し、「きょうどう」宣教の完成を目指すという前田大司教様の年頭所感がありました。私自身は、デニス神父様の宣教生活の最後の10数年を共にしてきました。松本一宏神父さんと三人の

共同宣教チームでした。それが解体して、一時期、三人分を一人で背負う事にもなり、観想的な御受難会員ではなく、活動中心の、臨機応変の活動といえば、まだ聞こえがいいでしょうが、その場その場の場当たりの司牧になり、将来的な見通しもない、その場限りのことばと行いが目立ちます。もう限界が見えてきたのです。会の方針として、しっかりと小教区を引き受ける方向を立てることになりました。教区は、「共同」ではなく、「きょうどう」で、役割と責任を明確にして協力して活動するという方針が立てられました。ノイ神父、中村神父、二人は50代の働き盛りの司祭、修道者です。これほどの充実した能力のある人材を小教区に投入することは、会全体が、小教区司牧に力を入れる証しでもあります。これから育つ御受難会の会員は、司牧を通して観想的な霊性を学び、そして高齢になれば黙想指導、霊的指導へと向う事になるでしょう。これから、海外から日本にくる会員を集めてくる方針でもあります。それは日本が国際化して、グローバル化することに備えて、多様な司牧活動が生まれてくる備えをすることです。その足音は池田教会でも聞こえてきているでしょう。同じ神の家族、キリストのからだとして小教区に集い、福音を喜びとして人間性の尊厳を証しする主の呼びかけに応えるためです。

わたしのサバティカル(研修休暇)は、単なる休みではなく、将来の御受難会のミッション(宣教の使命)を継続させるために、自分自身の精神を鍛え、国際性を身につけ、アジアの仲間の国々との交流を重ねて、日本へ宣教師を招き、その宣教の悩みを共にしながら、司牧の後方活動に参加することなのです。世話役、そんな年回りになったともいえます。デニス神父さんがしてくれなかったことは、会員の養成にかかわらなかったことです。これからは表だって皆様の前にでることはありませんが、皆様とともに歩んだ日々を忘れず、感謝しながら、皆様のために祈ります。どうか、皆様もまた、わたしが健康を保ち、使命を果たせるようにお祈りください。いつも、喜びをもって主の食卓を囲み続けることが来ますように。

### 3月のガラスケースのことば

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。  
休ませてあげよう

マタイ11・28

## 良き父親としての宣教師・デニス マックゴワン神父は去りぬ

「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる」(ヨハネ 16)

雨がしとしと降る2月10日土曜日の宵、池田教会の聖堂で、故デニス・マックゴワン神父様の追悼ミサが、山内十束神父様の司式により、御受難会の神父様方のご列席のもと、盛大に執り行われた。染野治雄神父様がお説教でデニス神父様への感謝を語り掛けられ、共同祈願では中高生や聖マリア幼稚園、ME、日生中央教会、池田教会などの代表がそれぞれの立場から祈りを捧げた。聖堂も小聖堂もデニス神父様を慕っていた人々で入りきれないほどとなり、ミサのあとの焼香の長い列はいつ果てるともなく続いた。とりわけ若い世代の参列者が多く、デニス神父様のご遺徳を物語っていた。最後に小学生代表、中学生代表、信徒代表が自分の思いをデニス神父様へ切々と語りかけた。そして悲しみのうちにも、感謝と希望に満たされて追悼ミサが終わった。



### 贈ることば

染野 治雄 C.P.

デニス神父様が天国へ行かれました。

去年の11月に90歳のお祝いをして間もなくのことでした。

毎月の「からしだね」には、ケンタッキー州レイビルのケアハウスから送られてくる神父様のメールが紹介されていました。そこには骨折した腕のレントゲン写真まであって、これが逆に、元気にリハビリに励んでいる証拠のようにも思え、なんとなく安心していたときです。

そんなデニス神父様の突然の帰天の知らせに、だれもがただ驚いていることでしょうし、池田に帰ってくるのを心待ちにしていた私たちにとって予想外の悲しいできごとです。

デニス神父様の、働きや人柄、生き方、教えてくださったこと、さまざまなエピソードなどは、皆さん

によってこれからまとめられ、語り継がれてゆくでしょう。そんなデニス神父様の人柄を思うとき、このごミサも、追悼というより、むしろ天国へ行った神父様への感謝と記念のミサというほうが似つかわしいと思います。

私がデニス神父様の近くにいることができたのは晩年の数年間、しかも一度骨折した後なので、足も少し不自由になったおじいちゃんの姿の神父様しか知りません。しかし昔の写真を見ると、私の想像ですけれど、たいへん男前で、生き生きと働く、いわば開拓者のような姿が心に浮かんできます。

ひとつだけ私の印象に残っていることを言えば、もう20年近く前のことですが、ウオード神父様が東京から池田へ引っ越すとき、私もお手伝いと称してお供したときのことです。私が持つのに難儀している重いスーツケースを、片手でひよいと持って、司祭館の階段を軽々と上っていった姿です。これでは手伝いとしては形無しです。もつとも、デニス神

父様の腕と私の腕と比べること自体、初めから意味がないのかもしれませんが。

とにかく、教会や修道院の工事や修理はできる限り自分たちです。衣食住、なんでも、みんなで助け合いながら、自分たちの生活を作ってゆく。そんなアメリカの修道院の生活スタイル、いわば開拓者精神で、みんなをぐいぐいと引っ張って教会共同体を形作ってゆくリーダーとしての姿。デニス神父様の若いころの写真をみると、そんなイメージが浮かんでくるのです。

フランクで、オープンで、新しいもの好きで、子どもが大好きで芸達者。そういう、時代が求める新しい生き方、新しい宣教の形を運んできた宣教師だったと思います。いわば良き父親としての宣教師であろうとしたのだと思いますし、じっさいよい父親として、よき御受難会員としてみんなを引っ張り、励まし、信仰に導いてくださいました。

二年前、2度目の骨折をして入院していたときも、毎日のリハビリに励んでいたとき、これだけではまだ物足りない、とおっしゃっていたのを思い出します。そのかいあって、アメリカに一時帰国するために退院したころには、司祭館の階段も難なく上ることができるよう回復していました。ですから、きっと日本に帰って来られるだろうとなんとなく楽観的に思っていました。そして、もうすぐ新しい家が出来上がろうとするとき、いきなり天国へと帰られてしまいました。

最後のさいごまで池田教会に帰ることを望んで努力を続けていた、その姿にかつての宣教師の心意気を見ることができた、そんな神父様でした。しかし、一方で、ひとつの時代が終わったともいえるでしょう。イエス様もおっしゃいます。「あなたがたの心は悲しみで満たされている」しかし、「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる」と(ヨハネ16)。(もちろん、亡くなるのがよいことだ、という意味ではありませんから、誤解しないでください。)

デニス神父様が伝えようとしたこと、残したことを、これからは、私たちが、私たちの言葉で、私たちの仕方によって、守り伝えてゆかなければなりません。それは、デニス神父様の真似をするということではなくて、私たち一人ひとりの仕方によって、デニス神父様の伝えようとしたことを伝えてゆくということです。たぶん、デニス神父さまも天国で、後はあなたたちの番だ。バトンは渡した。あとはまかせたぞ、とおっしゃっている(…かどうか? まだまだ私の出番はあるぞ、と言っているかも)と思います。これからは私たち自身の生きる姿によって、デニス神父さ

まが伝えようとしたことを形にしてゆく。これが、わたしたちの務めです。

デニス神父様と過ごせた時間は、幸せな時間でした。私たちの誇りです。デニス神父様、ほんとうにありがとうございました。デニス神父様を日本に送ってくださった神さまにも感謝します。デニス神父様、あとは任せてください。私たちが力をあわせて、この池田教会を守り、発展させてゆきます。天国で安らかにお休みください。そして、私たちのためにいつもお祈りしてください。

感謝の心をこめて、贈ることばとしたいと思います。

### 3月の教会カレンダーへの追加と変更

3月1、8、15、22日(木) 10時30分～

聖書100週間

3月3、17日(土) 14時30分～16時30分

ラウダート・シを読む会

3月9、23日(金) 14時～16時 福音書を学ぶ会

3月17日(土) 日曜学校合同お別れお泊り

会が中止され、次の日程のお泊り会へ変更。

## 大人の日曜学校(1月28日)の報告

「黙れ。この人から出て行け」

マルコ1・21～28

イエスが、汚れた霊に取りつかれた男に向かって言われたことばである。わかちあいの時にこの言葉を聞いて私もこんな力強いことばをイエスに言ってもらいたいと思った。私たちもこの男のようにいろいろのものにとりつかれているのではないだろうか。もっとまっすぐにイエスについていきたいと思いつつながら自分の思いにとらわれてそこから抜け出せない……

参加して下さった方のわかちあいから……このことが心配でどうしていいかわからない時に、ある神父様が、「イエスさまが、(そのこどもを)一生懸命いやしてくださっています。あなたは、それをじゃましないで寄り添ってあげてください。」といわれたそうです。

いろいろな人間関係においてわたしたちは、つい自分で全部何とかしようと思う。イエスさまが先ずかかわってくださっていることを思い起こすことができますように。

研修委員会

## 日曜学校の生徒募集案内

青少年育成委員会

日曜学校では新しい入学者を募集しています。対象者は、幼稚園の年中から小学生、中学生、高校生です。

日曜学校で一緒に聖書を読んだり、お祈りしたり、歌ったり、遊んだりしませんか？

洗礼を受けている・受けていないは問いません。また、初聖体準備クラスは2年生を対象にしていますが、それ以上の年齢でまだ初聖体を受けておらず、希望されるお子さんも参加可能です。新しい仲間の参加を心待ちにしています。どうぞまわりのお子さんをお誘いください。

お泊まり会も月に一度あります。小学生は第四週目の土曜日、中高生は第三週目の土曜日です。

ご相談、問い合わせは日曜学校サポーターまでお願いします。



…悪口を言わない

## 表紙の写真について

ケンタッキー州レイビル市にある聖アグネス教会です。デニス神父様がここで叙階までの最後の2年間倫理神学を学び、他の6人の同級生と共に副助祭として奉仕しました。この聖堂で司祭に叙階され、脇祭壇の十字架の聖パウロの祭壇で初ミサをささげました。十字架の道行の留ごとの脇祭壇があります。聖十字架管区の昔の修道院の趣をとどめる聖堂と小教区の聖堂を兼ねた聖堂です。今も御受難会の司祭が司牧しています。撮影は畠基幸 C.P.

(脇祭壇)



(聖堂内に安置されたデニス神父様の遺骸と御受難修道会司祭の方々。右から2人目にパトリック神父様)

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■日帰り黙想会

3月はお休み



### ■週末黙想会

3月24日(土) 17:00 ~ 3月25日(日) 15:30

指導: 山内十束神父

### ■聖週間黙想会

3月29日(木) 17:00 ~ 4月1日(日) 朝食後

指導: 山内十束神父

### ■韓国語による聖書の勉強

3月28日(水) 10:00 ~ 15:00

指導: アンドリュウ神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797(84)3111

## 編集後記

また春が巡ってきました。元気な子供達の声がマリア幼稚園から聞こえてきます。デニス神父様の好きだった幼稚園の桜ももうすぐ咲くことでしょう。園児達を見ると、どうしてもデニス神父様のことを思い出してしまいます。ある時、英会話のクラスで神父様に「本当に子供がお好きなんですねえ！」と言うと、こんなことを話してくださいました。「神学生の頃、どうしても司祭になりたかったし、そのことに迷いはなかった。でもちょうどその頃、道を歩いていると、前方に若いお父さんが何人かの小さい子供達を連れて楽しそうに歩いているのが見えた。その時、司祭になるということは、あれを諦めるということだと気が付いた。私はあの若いお父さんには一生なれないのだと思いました。それは私にはとても辛いことだった。」私はこう言いました。「でも司祭になったおかげで、こんなにたくさんのマリア幼稚園の子供達のお父さんになれたんですよ、神様のなさることは、やっぱりすごい！」神父様は何も言わずただ優しい顔で笑っていました。私はまだデニス神父様のことを思い出すと涙が出て止まりません。デニス神父様が天国で安らかに憩われますように！ 祈りのうちに。

とんとんみー